

水産基本計画（案）について意見

食のコミュニケーション円卓会議

2017年4月11日

2 国内の資源管理の高度化と国際的な資源管理の推進

(3) 数量管理等による資源管理の充実

・TAC対象魚種の拡大について

関係者の意見を聴きながら、導入に向けた検討を行うと書いてある

意見1：関係者の意見がまとまってから規制するといっていたら、いつまでたっても規制はできないのではないか。国や地方自治体が主体性を持って積極的に漁業管理をしていく姿勢を強く示すべき。

(4) 適切な資源管理措置の基礎となる資源評価の精度向上と理解の醸成

・イ 資源評価に対する理解の醸成について

様々な機会を利用し、漁業関係者のみならず消費者も含めた国民全般が資源状況と資源評価・管理の方向性について共通の認識を持てるよう情報提供を行うと、書いてある。

意見2：消費者は、漁業の現場を見たり触れたりする体験の機会がほとんどないため、漁業全般についての情報はメディアに頼っている。そのメディアの情報がそもそも適切でないと、国民の理解醸成は望めない。メディアの情報内容表現が適切なのかについて、資源評価の目で冷静に見て、もし不適切な情報については、訂正を求めるなどの対応も行うべき。

意見3：消費者が魚の資源管理に関心を持つことができるように、学校の教育や食育の現場でも積極的に取り上げるようにすべき。具体的な教材、消費者教育ツールなどの開発を望みたい。